

## 放課後等デイサービスにおける避難時の実際と課題

避難訓練から見てきたもの

○ NPO 法人チャレンジド 茂 大祐 (6694)

キーワード：障害者 避難 緊急時

### 1. 研究目的

東日本大震災をはじめとする震災や台風などによる自然災害で、各地で大きな被害が発生している。物理的な被害、人的な被害など、被害の種類は多岐にわたる。それに対する備えから、国や地方公共団体もいろいろな部面において対応を考えている。人的被害の軽減、家屋や建物などの耐震検査や補強の実施など、様々な対策が行われてきている。

医療と福祉を丁寧につまみ分けると、社会的弱者の課題も多くなっているといえる。高齢者、障がい者の課題については、様々なところで重視されている。医療分野に関しては、疾患やけがなどの緊急時の対策に力が注がれ、より適切な治療や措置が行われるような計画も立てられている。

一方で、社会的弱者の中でも、発達障がいや知的障がいなどをもつ方における災害対策ということに関しては、途上の状況下にあると考えている。特に、環境に適応が難しい、見通しが立たないなどの状況のために、パニック状態になってしまう方も多くいる。そのため、避難所や福祉避難所があったにしても、そこに入ることができないという状況もある。

そこで本研究では、災害において課題となる「避難」という視点を切り口に、当事者の命を守る対策について進めながら、意識の向上につなげていく。

### 2. 研究の視点および方法

現在、障がい者を支援する事業所に所属しており、地域に住まれている障がいを持っている方の生活支援や余暇支援を中心に行っている。事業としては、障害者総合支援法に基づく支援事業や支援者養成、放課後等デイサービスなど、様々な事業を行っている。サービス利用者の方からは、現在ではなくてはならない存在として非常に重要視されている。本研究の対象となる「放課後等デイサービス」についてもその事業の一つである。地域の就学期の方（小学生から高校生まで）を放課後や長期休暇などに預かり、余暇支援を行っている。

本研究の対象は、所属している NPO 法人の放課後等デイサービスを利用している子どもたちとする。対象者は、その日に利用される 10 名とする。対象者の障がいについての多くは、広汎性発達障害を持ち、大半が重度の方である。その他にも、身体障がいを持っている方もいる。開催時期は、長期休暇である夏休みの一日の活動を避難訓練として行う。内容は、避難経路の地図を使用し、事業所から近くにある避難場所に避難する計画である。本避難訓練実施においては、地域貢献団体の協力を得ながら進めた。

本研究では次の 2 点について進めるものとする。①避難所まで問題なくいくことができるか、②子どもたちが環境の変化に対応していくことができるかという 2 点について進めていく。

### 3. 倫理的配慮

本研究について、日本社会福祉学会研究倫理指針に従い、調査対象となる事業所等に承諾、許可を得ている。また、個人情報等に関して、十分に配慮を行っている。

#### 4. 研究結果

本研究の避難訓練の実施結果として、以下のような状況となった。

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 最初から歩けなかった | 3名                |
| 途中で車に乗った   | 4名                |
| 避難所まで移動できた | 3名（内訳：2名歩行 1名車いす） |

当日の状況として、日常の活動と異なる状況のために、子どもたちの中でパニックの状態が発生し、出発の段階から部屋から出ることができず、避難訓練できない状況であった。そのため、その措置として車に乗ってもらう方法をとった。その他の子どもたちにおいては、順調に出発ができた。しかし、気温が高く30度を超える真夏日であったことから、歩行が困難になる子どもたちが続出した。そのため、後ろから車で追いかける形で避難所を目指す形で対応した。それ以外の3名子どもたちにおいては、避難所とする場所にたどりつけた。

#### 5. 考察

実践を行い、想定していた状況以上に難しかったと考えている。パニックや環境の変化に関して、様々な面での対応が難しかったと感じている。そのため、対応や方法に関して、事前に対策を考え進めていく必要性を強く感じた。

##### ・動けない子どもたちについて

人が生きていくことが大前提の人権である、そのため、命を守るという観点から、納得して移動ができる方については問題ないが、それが難しい方においてはとりあえず台車のようなものに乗せて避難するというを前提に考えておく必要がある。今回は避難訓練であることから車を使用した。緊急時には道路の状況などから、車両が使用できるかわからない。そのため、とにかく歩けなくても移動できるような方法を考えるべきである。

##### ・気候の対策

災害はいつ発生するかわからないということが実情である。そのため、暑い寒いからといって、避難しなくていいわけではない。今回は避難できた子どもたちは3名である。季節の状況によっては、暑さ対策、寒さ対策などが重要となってくる。本事業所においては、暑さに弱い方もいることから、健康面や環境にも配慮を行いながら対策を講じていくべきだと考えている。

##### ・「慣れ」の必要性

この規模の避難訓練に関しては、今回が初めてである。そのため、場所を理解していない子どもたちもいたことから、避難できなかったという結果に至ったと考えている。ただ、前述もしたが災害はいつ起きるかわからないことから、状況の適応に困難を抱える方においては、日常的に避難場所へ足を運ぶなどして、その場所に「慣れる」ということが重要であるといえる。

##### ・地域との連携の重要性

現状として、地域の方との連携がまだまだ希薄である。日常的に子どもたちの声などが聞こえてくることで分かることはあるかと思う。しかし、実質的なつながりに関しては正直薄く、緊急時の際の対策においては不安な状況である。そのため、今後重視していく点については、災害対策を念頭に、地域の方々と協同で避難対策を考えることができるような関係づくりの構築を進めていく。そして、より具体化された避難経路や避難場所の確保、人的資源などを双方で活用できるシステムをつくる必要がある。